

(別紙3)
教文起第666号-1
平成29年7月31日

(施設名) 米子市淀江文化センター
(指定管理者) 一般財団法人 米子市文化財団
(代表者名) 理事長 杉原 弘一郎 様

米子市長 伊木 隆 司

平成28年度「米子市淀江文化センター」指定管理者業務評価書

施設名	米子市淀江文化センター
施設所管課	米子市教育委員会事務局文化課
指定管理者名	(一財) 米子市文化財団
指定期間	平成28年4月1日 ~ 平成33年3月31日 (1年目)

【モニタリング終了後の総評】

【施設所管課】

淀江という立地をいかした企画や駐車場との距離が近く車で来館しやすいという特徴をいかした、子供や家族連れ等を対象とした事業展開を行い、他館との差別化を図っている点は評価できる。また、老朽化した建物や設備の不具合にいち早く対処するなど、施設管理に対する取組みも評価できる。

【第三者評価】

① 施設について

- ・設備的に、特に音響的に他のホールより使いやすいイメージがある。去年も9月に大ホールで演奏したが、生音でしっかり伝わるホールだと思う。
- ・建物や備品などの経年劣化が考えられるが、小修繕は職員で行うなど節約や維持管理に努力していることが伺える。

② 管理について

- ・適切に行われていると思う。
- ・名前はやはり「さなめホール」というイメージが強いので、淀江の「さなめホール」らしさを今後も発揮してほしい。
- ・LED 蛍光灯への交換や客席のゴムストッパー交換など、経費削減や利用者サービスにも心を配っていることが伺えた。また、環境整備にも努力が感じられた。
- ・大ホール階段の一部に手すりを設置するなど、細やかな配慮、施設改善への努力が感じられた。

③ 事業について

- ・事業全般に高齢者向けがやや少ないように思う。
- ・地域性をいかした事業が特徴的である。利用者数が大きく伸びているが、今後とも利用しやすさをアピールして、有効活用してほしい。
- ・地域に密着したイベントが多いように感じ、評価できる。
- ・シャトルバス等、交通弱者への対応が課題である。
- ・利用者人数も前年度より増えており、現在の事業や企画等を引き続き実践してほしい。

・淀江地区をテーマにした事業や「ランチタイムレコード」という定期的なイベントなど、特色ある事業が定着しつつある。ロビーの活用も含め、事業アイデアの努力が伺える。

【今後の業務改善方策等の特記事項】

【施設所管課】

今後も適切な施設管理に努めるとともに、地域の特色をいかした企画や立地条件をいかした子供向け、家族向けのイベントなどに取組み、他館との差別化をいっそう明確にすることで施設の存在感を高めていくこと。

【第三者評価】

・米子市の旧市街地から離れた立地場所ではあるが、今後も淀江地区の特色を生かした事業や旧市街地の米子市民が出かけたくなるような事業アイデアの推進に期待したい。「ランチタイムレコード」でのSPレコード鑑賞などに個人的に参加させていただいたが、大変興味深い催しだった。

・学校教育への支援活動として、日程調整が難しいときには休館日も利用できるとか、本番だけでなく練習日も同じ条件で利用できる（上限を決めて）といったことを検討してはどうか。

平成28年度下期「米子市淀江文化センター」モニタリング評価表 [平成29年6月]

施設名	米子市淀江文化センター	
施設所管課	教育委員会事務局文化課	
指定管理者名	団体名	(一財)米子市文化財団
	所在地	米子市淀江町西原708-4
指定期間	平成28年4月1日 ~ 平成33年3月31日	
選定方法	公募・非公募	
施設の設置目的	米子市淀江文化センターは旧淀江町が伯耆芸術文化の里創造事業の一環として建設し、文化活動の普及及び振興を図ることを目的としている。	
主な実施事業	鑑賞事業（優れた舞台芸術の鑑賞機会の提供） 年間3回程度 参加型事業（多数の市民が参加できる芸術文化の発表の機会提供） 年間3回程度 教育普及事業（芸術文化に関する普及活動、情報提供） 年間3回程度	

評価項目	評価基準	評価	特記事項
I 履行の確認 (60点)			
1 施設全般の管理運営に関する業務			
(1)管理体制	施設の管理体制が明確になっており、基準に基づいた適切な人員配置がされているか 安全対策、危機管理体制などが十分に講じられているか	B	資料確認・現地確認 人員配置は計画通りであり、災害マニュアル等を作成している。
(2)職員研修	職員の業務に必要な資質・能力の向上を図るための研修・教育が適切に行われたか	B	資料確認 適宜研修が実施されている。
(3)利用促進業務	利用者拡大のための利用促進業務が適切に行われたか	A	資料確認・現地確認 ポスター、チラシの配布、報道機関への情報提供、facebookを活用した広報等、適宜行われている。
2 利用者に関する業務			
(1)利用状況	利用者数・稼働率等は適切な水準であるか 補足資料※1	B	資料確認 施設利用者数は前年を上回っているため。
(2)利用者の要望把握等	利用者の要望の把握及びその実現策は適切に行われているか	B	資料確認・現地確認 自主事業についてはアンケート用紙が配布され、要望等の実現策を検討していた。
3 保守点検並びに清掃等の業務			
(1)保守点検業務	基準に基づき、保守点検が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	B	資料確認 適切に行われている
(2)清掃・維持業務	基準に基づき、清掃業務・維持管理が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	A	資料確認 季節に応じた花のプランターを設置するなど、周辺の環境美化に努めているため。
(3)保安・警備業務	基準に基づき、保安・警備業務が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	B	資料確認 適切に行われている。

(4) 修繕業務	基準に基づき、修繕業務が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	A	資料確認・聞き取り確認 空調室外機の修繕、大ホール客席のゴムストッパー交換など適切に行われたため。
4 自主事業の実施に関する業務	事業計画書に沿った自主事業が適切に行われたか	B	資料確認・聞き取り確認・現地確認 事業計画書通り事業は実施されている。
5 情報公開・個人情報に係る措置	情報公開・個人情報保護に係る措置は適切に行われたか	B	資料確認 適切に行われている
6 管理目標	施設の現状を正しく認識し、今後の在り方についての提案は具体化されているか	A	資料確認・現地確認 淀江地域の特色や駐車場から近く家族連れなどが気軽に利用できるという立地条件をいかした事業展開を行い、他館との差別化を図っているため。
II サービスの質の評価 (25点)			
1 利用者満足度	利用者へのサービスの質を維持・向上させるための提案は具体化されているか 利用者アンケート等を実施し、その結果は妥当であるか	B	資料確認 自主事業の際は、アンケートを配布集計され月例などで報告がされ、利用者の回答内容は概ね良好であった。
2 維持管理業務	日常清掃業務や衛生管理、備品などの設備の維持管理は適正に行われ、良好な状態で施設の利用が行われているか	A	資料確認 トイレ便器のひび割れが発生した際には、いち早く原因究明に努め適切な対応を行ったため。
3 運営業務	事業運営について、サービス水準の向上のための創意工夫が見られるか。 利用許可などの利用者への接客・対応は適切であるか	B	現地確認・聞き取り確認 利用者に対する対応について適切に行われている。
4 自主事業	実施された事業内容は、施設の設置目的に沿い、サービス水準の向上に寄与する質の高いものであるか	B	資料確認・現地確認 自主事業の入場者数は前年をやや下回ったものの、淀江地域の文化的資源をいかした企画、子供や家族連れに向けた事業の充実を力を入れ、地域の文化振興を図っているため。
5 施設の効用	施設の効用を最大限に発揮し、設置目的の達成に資することができる管理運営内容であったか	B	資料確認 大ホールだけでなく、イベントホール、ロビー等で地元の文化的資源、人材等を活用した多様な事業を行い、施設の利用促進を図っているため。
III サービスの安定性の評価 (15点)			
1 事業収支	指定管理業務の事業収支は妥当であるか 補足資料※2	B	資料確認 妥当である

2 経営状況	指定管理業務の経営状況分析指標の結果は妥当であるか 補足資料※3	B	資料確認 妥当である
3 団体等の経営状況（年度ごと）	団体の経営状況分析指標の結果は妥当であるか 補足資料※4	B	資料確認 妥当である
【総評（所管課評価）】 淀江という立地をいかした企画や駐車場との距離が近く車で来館しやすいという特徴をいかした、子供や家族連れ等を対象とした事業展開を行い、他館との差別化を図っている点は評価できる。また、老朽化した建物や設備の不具合にいち早く対処するなど、施設管理に対する取組みも評価できる。			合計点 (70) 点 / (100) 点 × 100 = (70) 平均点 (3.5) 点

※施設の性格や設置目的により、評価項目は追加、変更できる。

※評価区分 A（優 良）＝協定書等の基準を遵守し、その水準よりも優れた管理内容である。（5点）

B（良 好）＝協定書等の基準を遵守し、その水準に概ね沿った管理内容である。（3点）

C（課題含）＝協定書等の基準を遵守しているが、管理内容の一部に課題がある。（1点）

D（要改善）＝協定書等の基準を遵守しておらず、改善の必要な管理内容である。（0点）

※特記事項欄は評価を行った確認方法（例：立入調査、台帳確認、資料等確認）と当該評価を行った理由を記載する。

※総評欄は、事業計画書等との整合性を検証し、評価、業務の改善方策等を記入する。

【補足資料】

※1 利用状況

項 目	本年度〔平成28年4 ～3月〕 A	前年度〔平成27年4 ～3月〕 B	対 比 A-B、A/B		対比が±20%を超える場 合は増減理由を記載
開館日数	307	308	△1	99.7%	
施設利用者数	54,718	47,431	7,287	115.4%	
施設稼働率	100%	100%	0	100%	
事業開催数	17	16	1	106.3%	

※2 事業収支

(1) 収 入

項 目	本年度〔平成28年4 ～3月〕 A	前年度〔平成27年4 ～3月〕 B	対 比 A-B、A/B		対比が±20%を超える場 合は増減理由を記載
利用料収入	8,490,352	6,785,898	1,704,454	125.1%	利用件数の増
指定管理料	37,410,000	36,213,000	1,197,000	103.3%	
事業収入	745,700	370,600	375,100	201.2%	入場料収入の増
補助金及び助成金	100,000	0	100,000	-	
その他	95,933	167,254	△71,321	57.4%	自販機電気代の減
合 計	46,841,985	43,536,752	3,305,233	107.6%	

(2) 支 出

項 目	本年度〔平成28年4 ～3月〕 A	前年度〔平成27年4 ～3月〕 B	対 比 A-B、A/B		対比が±20%を超える場 合は増減理由を記載
人件費	18,516,478	17,430,817	1,085,661	106.2%	
委託料	14,883,278	15,243,889	△360,611	97.6%	
施設費	10,888,207	10,842,435	45,772	100.4%	

事業費	1,395,616	694,715	700,901	200.9%	事業開催経費の増
合計	45,683,579	44,211,856	1,471,723	103.3%	

※3 経営状況分析指標

項目	本年度〔平成28年4～3月〕 A	前年度〔平成27年4～3月〕 B	対比 A-B、A/B		備考
① 事業収支	1,158,406	△675,104	1,833,510	-	
②利用料金比率	18.13%	15.59%	2.54%	116.3%	
③人件費比率	40.53%	39.43%	1.1%	102.8%	
④外部委託費比率	32.58%	34.48%	△1.9%	94.5%	
⑤利用者当たり管理コスト	835	932	△97	89.6%	
⑥利用者当たり自治体負担コスト	684	763	△79	89.6%	

①事業収支：(収入－支出)

事業全体が黒字で施設の管理運営ができていどうか確認する。赤字の場合は管理継続性の面での課題を解決し、黒字化のための方策を検討する。

②利用料金比率：(利用料金収入/収入)

収入に占める利用料金の割合。指定管理者の収入源がどこにあり、それが安定したものであるかを確認する。

③人件費比率：(人件費/支出)

支出に占める人件費の割合。支出の中で人件費が減らされすぎていないか、逆に費用がかかりすぎていないかを確認する。

④外部委託比率：(外部委託費合計/支出)

支出に占める外部委託費の割合。外部委託に過度にシフトしていないかを確認する。

⑤利用者当たり管理コスト：(支出/延べ利用者数)

利用者1人当たりにかかる費用。前年度や事業計画との比較、類似施設との比較により施設の効率性を確認する。

⑥利用者当たり自治体負担コスト：(指定管理料/延べ利用者数)

利用者1人当たりにかかる自治体の費用。前年度や事業計画との比較、類似施設との比較により施設の効率性を確認する。

※4 団体等の経営状況

項目	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	備考
①自己資本比率	63.1	54.9	44.1	57.7	51.0	
②流動比率	288.1	230.7	182.1	304.5	238.4	
③固定長期適合率	11.5	14.2	15.5	15.3	15.9	
④総資産経常利益率	-1.5	-6.4	-1.8	-6.5	7.6	
評価	(以上の指標を参考に評価する。)					

①自己資本比率

総資産(資産合計)に占める自己資本(純資産合計)の割合を示した指標。どれだけ借金に頼らず経営をしているかを示す。比率が高いほど借金(負債合計)に頼る割合が低く、経営が安定していることを示す。一般的には、70%以上なら理想企業、40%以上なら倒産しにくいとされている。

$$\text{自己資本比率}(\%) = \text{自己資本} \div \text{総資産} \times 100 \quad \text{【例】} 800 \div 2,000 \times 100 = 40.0\%$$

【公益法人会計の場合：正味財産計÷資産計×100】

②流動比率

団体の短期的な支払い能力を示す指標。1年以内に現金化できる試算を「流動資産」、1年以内に支払いを要する負債を「流動負債」と言い、「すぐに準備できるお金」と「すぐに返さないといけないお金」のバランスを比較する。流動資産(すぐに準備できるお金)の方が多いほど、支払い能力が高いことを示す。100%以上であれば問題ない。100%未満であれば資金繰りが苦しいとされる。

流動比率 (%) = 流動資産 ÷ 流動負債 × 100 【例】 1,100 ÷ 700 × 100 = 157.1%

③ 固定長期適合率

固定資産をどの程度、自己資本（純資産合計）と固定負債で賄っているかを示す指標。土地や建物など、この先1年以上換金できない、または換金しない固定資産を返済義務のない自前の資金である自己資本（純資産合計）と長期で調達したお金（固定負債）でどれだけ賄えるかを見る。100%未満であれば問題ないが、100%以上の場合は固定資産の維持調達について流動負債にも依存していることを示すことから、資金繰りが苦しいと考えられるとされる。

固定長期適合率 (%) = 固定資産 ÷ (固定負債 + 自己資本) × 100 【例】 900 ÷ (500 + 800) × 100 = 69.2%

【公益法人会計の場合：固定資産 ÷ (固定負債 + 正味財産計) × 100】

④ 総資本経常利益率

団体の総合的な収益力を示す指標。団体の総資産（資産合計）に対して、どれだけ経常利益を稼ぎ出しているかを示す。比率が高いほど資本を効率的に運用し、収益を上げている。

総資本経常利益率 = 経常利益 ÷ 総資産 × 100 【例】 200 ÷ 2,000 × 100 = 10.0%

【公益法人会計の場合：正味財産増減額 ÷ 総資本 × 100】

■ 貸借対照表 (例)

【資産の部】	【負債の部】
流動資産	流動負債
現金及び預金 400	買掛金 400
受取手形 500	短期借入金 300
有価証券 200	流動負債合計 700
流動資産合計 1,100	固定負債
固定資産	社債 300
建物及び構築物 200	退職給付引当金 200
土地 500	固定負債合計 500
投資有価証券 200	負債合計 1,200
固定資産合計 900	【純資産の部】
	資本金 600
	利益剰余金 200
	純資産合計 800
資産合計 2,000	負債純資産合計 2,000

■ 損益計算書 (例)

売上高	3,000
売上原価	1,200
売上総利益	1,800
販売費及び一般管理費	1,200
広告	700
人件費	500
営業利益	600
営業外収益	200
受取利息	200
その他	0
営業外費用	600
支払利息	200
社債利息	0
経常利益	200
特別利益	100
外国為替	100
特別損失	50
固定資産売却損	50
税引前当期純利益	250
法人税・住民税等	50
当期純利益	200

5 利用者からの苦情の内容とそれに対する市・指定管理者の対応や市から指定管理者への指導状況

なし

6 利用者アンケートの結果

催しの内容、施設の清潔さ、接客、館内表示等の項目について調査を行い概ね良好な回答であった。